

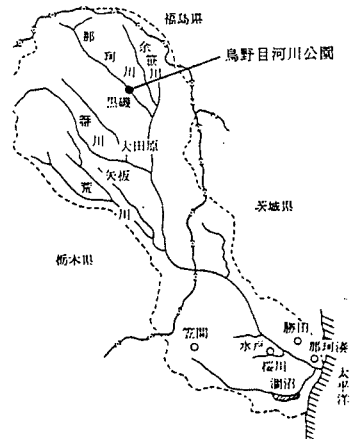
(Ⅱ－50) とりのめ 鳥野目河川公園について

築瀬和裕 正会員 栃木県土木部河川課

1. はじめに

ライフスタイルの変化、自然志向や心のゆとりが求められる今日、河川の持つオープンスペースとしての機能は重要性を増している。那珂川是那須岳を源として、那須野々原を流下し、太平洋へ注ぐ幹路延長 150kmの一級河川である。流域には日光国立公園をはじめ、8つの県立公園があり、自然環境は多彩かつ豊かである。那珂川の上流に位置する黒磯市是那須高原や板室温泉などの観光資源に恵まれ、東北自動車道からのアクセスも良く、首都圏から訪れる人が多い地域である。

紹介する施設は、このような環境にあり平成7年にオープンした鳥野目河川公園（A＝12.4ha）である。



図－1 那珂川流域概要図

2. 河川公園の概要

(1)基本計画

黒磯市街地に隣接する那珂川の地先周辺は、県政のマスタープランである「とちぎ新時代創造計画」において、親しみとやすらぎのある水辺づくりゾーンとして位置づけられており、かつ黒磯市においても、振興計画に基づき市民の憩いの場として那珂川河畔公園や市民プールなどの施設が整備されている。その上流に位置する鳥野目地区は、自然豊かな水辺環境を持つエリアであり、栃木県と黒磯市は、那珂川の変化に富み自然豊かな水辺空間を活用し、多彩な親水活動が楽しめる自然の水辺レクリエーション施設の整備を行うこととした。

(2)環境整備計画

河川公園整備に際して環境整備計画を策定し、具体的な整備内容を検討している。

- ①周辺地域の現況把握（地域特性、周辺地域の動向、自然環境、歴史環境）
- ②対象地区の現況把握（河川特性、景観特性、周辺利用状況）
- ③問題点の整理、課題の検討（既存施設との整合、アクセスの確保）
- ④整備内容の検討

(3)整備施設

河川公園は栃木県と黒磯市が一体となって整備を進めた。公園のアクセスに必要な進入路は黒磯市が市道を改良した。また、当該地区是那珂川の上流部に位置しており、比較的流れが速く水質も良好であることから、公園内に那珂川の水を導水して子供でも安心して遊べる「せせらぎ水路」（写真－1）やボート遊びなどができる池（写真－2）を整備している。本川沿いには桜の木を植え桜づつみを整備し、護岸の一部を階段護岸にするなど、川とふれあう親水性の高い施設を目指した。既存の樹木などは極力現状のまま残して自然環境に配慮するとともに、自然に親しめるようキャンプ場や芝生を張った多目的広場を整備している。なお公園の管理は、黒磯市が河川法24条、26条により行っている。

表－1 公園内施設概要

施設名称	数 量	施工主体
園内通路	1,984m	栃 木 県
せせらぎ水路	1,073m	栃 木 県
池	13,560㎡	栃 木 県
トイレ	5 棟	栃 木 県
水飲場	4 箇所	栃 木 県
散策路	700m	栃 木 県
芝生広場	18,846㎡	栃 木 県
桜づつみ	500m	栃 木 県
オートキャンプ場	46サイト	黒 磯 市
管理棟	1 棟	黒 磯 市
バーベキュー施設	11炉	黒 磯 市

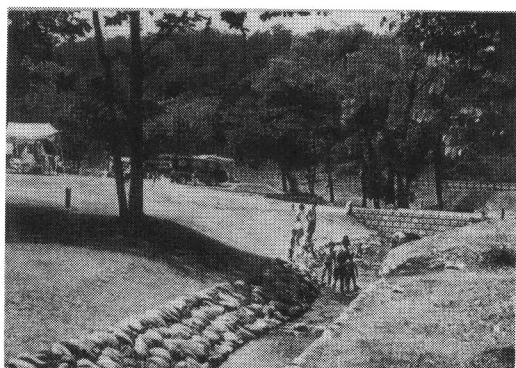


写真-1



写真-2

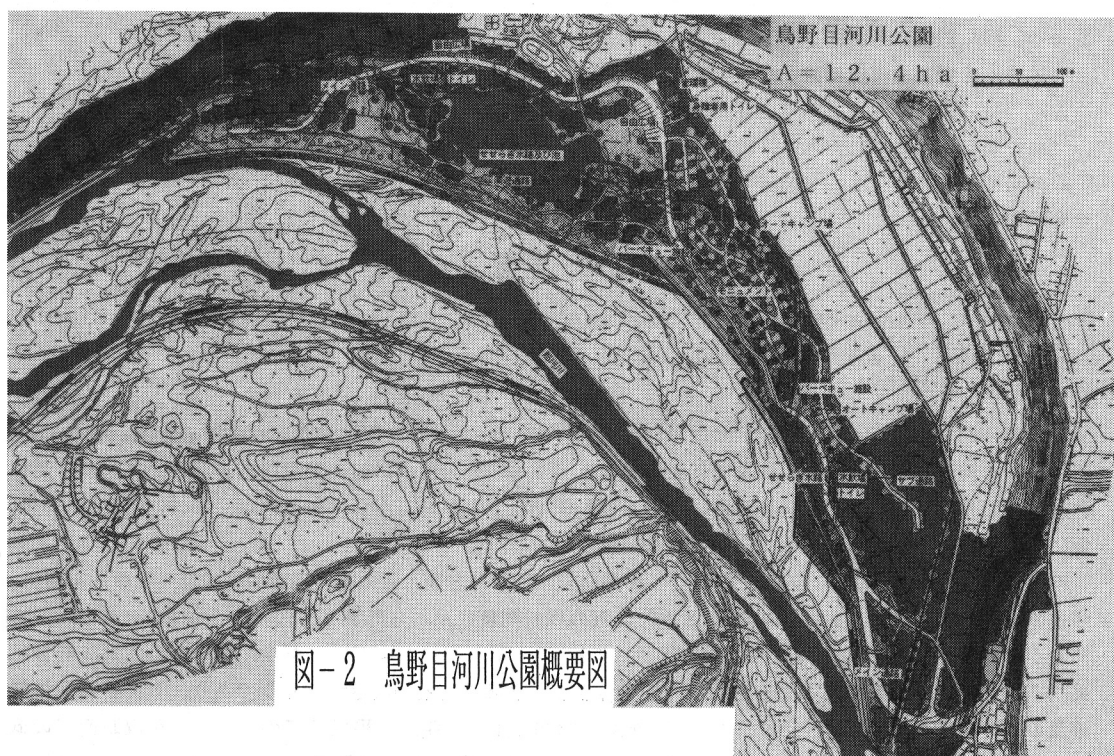


図-2 鳥野目河川公園概要図

3. 利用状況

週末には公園内を散策する家族連れやバーベキューを楽しむグループ、那珂川で魚釣りを楽しむ釣り人の姿が多く見られる。河川公園内のキャンプ場は、4月から10月までオープンしているが、利用者数は平成7年10,166人、平成8年20,975人にのぼり、県外の利用者が過半数を占めている。黒磯市ではキャンプ場利用者にアンケート調査を実施しているが、河川公園の環境についてはかなりの人が満足しているようである。特に広々としたキャンプサイトと河川公園の自然の豊かさが利用者からは好評を得ている。

4. おわりに

鳥野目河川公園を紹介してきたが、利用者にはなかなか好評のようである。また、現在栃木県では河川公園と下流施設を結ぶ工事を実施しており、上流においてはカヌー遊びなどができる施設も検討中である。今後も多くの人々に自然豊かな鳥野目河川公園を楽しく利用してもらえれば幸いである。